

浄泉寺護寺会報

URL <http://e-jousenji.com/>

発行者 浄泉寺護寺会会長 庄 司 寿 夫

浄泉寺護寺会に思う

浄泉寺護寺会 会長 庄 司 寿 夫

東日本大震災から約5年3か月、熊本地震から早や2か月が過ぎています。そういうなかで、梅雨晴れのもと、平成28年度浄泉寺護寺会総会が6月26日午後1時から開催されました。

「この浄泉寺は、口伝によると約350～400年前頃に、岩出山に開教されたと言われており、……そのルーツは、刈田郡遠刈田金山（岩出山町史より）とか、武蔵国赤羽の里とか、三河赤羽根の地、又伊達家との縁で近江の方からとも、その説は様々ではっきりしていません。」と本堂新築記念誌の「浄泉寺の沿革」に記されています。

そして、浄泉寺護寺会が設立されたのは昭和50年頃であり、それから約40年の歳月が流れています。その間、ご住職のご指導のもと、先輩役員の方々、ご門徒の皆さんのご理解とご努力によって、今日まで運営されて来ました。深く感謝申し上げます。

ご住職が常々「護寺会は、学校で言うところ、PTA的な存在である」と話されています。寺にはハード的な面とソフト的な面があります。ハード面では、本堂・庫裡の新築、側溝の整備等々により充実され

て来ています。ソフト面では、同朋の会が設立されて毎月20日に定期的に開かれており、毎回20数名の会員皆さんが参加し「身近な仏事に関する話題」「正信偈・歎異抄の解説」等々が心の糧になっています。この会も3年が経過しています。

そして、浄泉寺で帰敬式（おかみそり）を受けられた方は31名、本山で受けられた方は40数名、合計70数名に及びます。

また、帰敬式を受けた方々の研修会が今年も9月に予定されています。仏弟子として「もう一人の自分に出会う」心構えが定着して来ているのではないのでしょうか。

浄泉寺護寺会の設立は、旧岩出山地区では遅い方であると聞いていますが、「開かれたお寺」としては確かな仏の道を着実に進んでいると思います。

例えば、毎月10日、朝6時30分からの「正信偈の集い」に約20名の門徒の方々が参加しています。なかには、ご住職の法話に「心が洗われる」と言って、毎回古川から電車で来寺される方もおられます。

これからも、数多い門信徒の法灯を守り、親から子へ、人から人へ、心から心への、真実の歩みを求め続けたいと思います。

本山春の音楽法要

— ご本尊還座式に参加して —

住職 赤羽根 證 信

私達の本山東本願寺(京都)は、幕末から明治維新の激動期に焼失し、3度目の再建を余儀なくされ全国の門信徒の力で20年余の年月をかけ世界最大級の現在の伽藍として私達に引き継がれました。以来150年になります。

平成23年宗祖親鸞聖人750回ご遠忌を厳修する記念事業として10年余の歳月をかけ、ご影堂、山門、そして阿弥陀堂の修復工事が昨年末終了しました。今年3月31日、それまでご影堂に仮安置されていたご本尊が阿弥陀堂(本堂)に帰る還座式が行われました。

当日は、ご影堂はもとより廊下、阿弥陀堂、そして広い境内が参詣の人・人・人でいっぱいになり、ご影堂からお厨子におさめたご本尊を沢山の関係者の手によって廊下を通り(縁儀)阿弥陀堂への行列が念佛の声の中厳粛に進められ、それは秋の報恩講の雰囲気と全く違う、参詣者の華やかな喜びの顔があちこちに溢れていました。私と坊守はそれをご影堂の廊下でお詣りさせていただきました。

翌4月1日午前10時、阿弥陀堂に於いてご本尊安置と修復工事完成慶讃法要が全国から参加された大勢の法中(僧侶)により厳修されました。

午後2時、ご影堂で繰り広げられた宗祖親鸞聖人ご誕生会音楽法要は、50年ほど前から毎年4月1日に全国から参加者を募って行われます。今年は記念すべき年、是非参加出来たらと念願しており、同朋の会の皆さんに紹介。浄泉寺からはじめて5名の方が参加されました。

その皆さんから感想が寄せられましたので報告させていただきます。



3月30日朝、岩出山を出発、古川より新幹線で京都へ、午後1時全国から参加された120人の人々と共に本山研修センターで合宿練習と和気あいあいの交流の場が設けられ充実した2日間のレッスンの後、いよいよ当日。

ご影堂には満堂の参詣者の中を入堂、「ただ今より宗祖親鸞聖人ご誕生会音楽法要を行います」とのアナウンスに続いて一同合掌、真宗宗歌斉唱。3000人を超える人々の大合唱は堂内に壮大に響き渡り、思わず涙が流れていました。それは正に「感涙にむせぶ」そのものでした。そして1時間、南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏の歌声の後、最後の恩徳讃「如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし……」。歌い終え控室に戻り参加した人々と感激と感動の握手と拍手でした。

住職さんに進められ何も知らずおまかせしての参加、第1日目は不安で逃げ帰りたいとの思いもありましたが、参加して本当に良かったと感謝の念でいっぱいです。有難うございました。

浄泉寺春のつどい開催

副住職 赤羽根 聡



平成28年5月15日当日の朝、毎朝本堂に参詣している人々が式幕を張りながら「今日も浄泉寺晴れだね」と話していました。

3年目を迎えた春のつどいは、同朋の会でタイムスケジュールを作り準備。

午後1時、同朋の会総会を開催し、その中で、会発足以来会長を務めた庄司寿夫さんに代って石崎純一さんが会長になりました。それに伴い「帰敬式受式者研修」をはじめ各種事業実施についても議論され、更なる発展を展望し、事業計画なども見直されました。これからの会の活動が大いに期待されると思います。

午後2時、春のつどい（法要）がつとまり、その中で住職が「人として生まれた意義と生きる喜びを確かめる仏事になれば…」と表白されました。住職は午前中アクシデントに見舞われたことで心配もありましたが無事務め終わりました。

午後3時、帰敬式が行われました。3月26日に帰敬式受式予定者研修会を経て今回11名の方が受式され、一人ひとりに本山東本願寺釋浄如門主より法名が授与され、住職によって伝授されました。

受式された皆さんの今後の活動に注目してまいりたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

浄泉寺護寺会総会報告

平成28年6月26日午後1時、浄泉寺護寺会総会が開催されました。

出席者全員による正信偈唱和、俱会一處前での読経焼香の後、総会開会。庶務蘇武則行氏司会のもと、庄司寿夫会長あいさつに続き、文屋文夫氏が議長に選出され、事業報告等6議案を審議、全て満場一致で可決承認されました。

平成28年度総会議案

平成27年度事業報告

平成27年度収支決算報告

平成27年度特別会計決算報告

（維持改善基金・上山研修基金）

監査報告 監事佐藤厚氏

平成28年度事業計画の承認

平成28年度収支予算の承認

総会終了後には懇親会が行われ会員相互の親睦をはかり盛会裏に終了いたしました。平成28年諸事業が効果的に運用されます様会員皆様のご協力をお願いいたします。

帰敬式受式者研修会開催

昨年に引き続き研修会を実施いたします。お忙しいことと存じますが是非ご参加くださいます様ご案内申し上げます。

記

日時：9月4日(日) 午前10時より

場所：浄泉寺本堂及び庫裡

会費：2千円（昼食代含）

日 程

9時30分 受付

10時 開会・勤行

10時30分 講義

12時 … 昼食休憩 …

13時 講義・質疑

15時30分 恩徳讃斉唱 閉会

16時 懇談・懇親 18時解散

前 へ

同朋の会会長 石 崎 純 一



日頃、同朋の会運営につきまして、多大なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、去る5月15日、平成28年度同朋の会総会に於いて会長に選出されました石崎純一です。

同朋の会は今年で4年目を迎えました。庄司寿夫前会長には、まだまだ足元にも及ばぬ未熟者ですが、少しでも近づくべく精一杯私なりに頑張りたいと思います。また、今回の役員改選では、監事の高橋正昭氏が副会長に、その後任に大場利幸氏が共に選任され、体制が更に充実されました。それにより事業実施についても新しい展開が期待されますことを併せて報告させていただきます。

本会は「念仏者はみな『御同朋御同行』なり」のもと、師匠と弟子といった堅苦しいものでなく、気さくに、気軽に「もう一人の自分に会いに来た」様な、そんな会に

なっていくことをさらに目指してまいりたいと思います。

終りに、皆様のご鞭撻と絶大なるご協力を切にお願いして就任のあいさつとさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

お 知 ら せ

これからの行事等

- 7月 孟蘭盆会(うらんぼんえ)
- 8月 一斉清掃(墓地、境内地)、各自の墓地と本堂境内周辺の清掃
- 13～16日 万灯籠会
- 9月 帰敬式受式者研修会
- 10月 東北別院報恩講参詣及び研修
- 11月 報恩講・おみがき
- 29年1月 修正会(しゅしょうえ)
- 2月 涅槃会 仙台組声明講習会
護寺会役員一泊研修

万灯籠会開催

8月13日～16日午後6時30分から8時まで、万灯籠会(まんとうろうえ)が行われます。これは、浄泉寺参道両側に灯籠を灯すお盆の恒例行事です。幻想的な雰囲気の中での墓参りは、夜の風物詩ともなりました。是非、ご家族揃ってお出かけください。なお、灯籠記名のお申し込みは地区役員か寺までご連絡ください。

会費は一基千円となります。

あ と が き

平成28年浄泉寺春のつどい(法要)が開催された。この事業は平成26年5月18日に初の開催以来今年で第3回となる▼実施にあたっては「同朋の会を結成し運営にあたる」とし、会は平成25年12月に結成された。事業は「春のつどい」を中心に据え、今後は「浄土真宗の教え『本願を信じ念仏申す』との間法生活者を生み出す」との会の目的に沿った種々の事業を展開する▼春のつどい実施については、帰敬式の開催が最大のテーマで、これまでの受式者は第1回、同朋の会役員を中心に11名、第2回9名、第3回は浄泉寺関連の寺、他地区門徒を含め11名と総数31名を数える▼今後、所期の目的達成のため努力を続ける同朋の会にご支援ご協力をお願いします
(編集委員)